

表4 受取人が小波である絵葉書の差出人

(土居安子「巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵はがき等の概要について—小波宛て絵はがきの差出人—」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第37号、2024年3月31日))

*現在読み取りができ、わかっている人物のみを一覧にした。

*項目「俳句数」は、絵葉書に俳句が掲載されている数、*は葉書には俳句が掲載されていないが、小波との関係が俳句によると考えられる人物

*寄せ書きのように、差出人が複数あるばあいは、それぞれの人物で1通と数えている

*差出人名は、一般的に知られていると思われる名前を記入し、雅号や本名を「差出人について」に記した

*項目の「洋行土産」は、『小波洋行土産』上下(博文館 1903)に記載があるか、「我が五十年」は、『我が五十年』(東亜堂 1920)に、「還暦記念」は、『還暦記念 小波先生』(木村定次郎編・発行 1930)に記載があるかを示し、「日本葉書会」は、加入者名に○を付した(向後恵里子「日本葉書会一日露戦争期における絵葉書ブームと水彩画ブームをめぐって」『早稲田大学教育学部学術研究』第58号 2010 59-90 による)

	差出人名	所属や肩書	差出人について (含：小波との関係)	葉書数	俳句数	洋行土産	我が五十年	還暦記念	日本葉書会
1 作家	伊臣 紫葉	小説家	尾崎紅葉の門下	1	1				
	石橋 思案	作家	硯友社/博文館	1		○	○		○
	井手 蕉雨	小説家	本名：井手通	1					
	鵜崎 一畝	作家、記者 (日報社)	木曜会、久留島武彦とともに『陸海軍人生活』を書き、『少年世界』にも寄稿あり	1	1		○		
	江見 水蔭	小説家	硯友社、博文館 本名：忠功 杉浦重剛の称好塾からの友だちで、小波に誘われて硯友社に入る	1	1	○	○	○	○
	小川 煙村	小説家、戯曲家	本名：小川多一郎 画家小川千麿の兄。	5	1				
	押川 春浪	小説家	『冒険世界』(博文館)で主筆、木曜会	1	1		○		○
	金子 紫艸	小説家	千葉(のちに金子)木曜会 紫草	1			○		
	葛原 しげる	童謡詩人、童話作家、教育者	博文館『少年世界』の記者、童謡詩人、編集者	1				○	
	久留島 武彦	児童文学者	口演童話家、博文館、小波が結婚前、一時期、同居	3			○		
	黒田 湖山	小説家	硯友社、本名：直道、水口出身、郷里からでてきて小波宅に住む 『少年世界』に多数執筆	1			○		
	須藤 光暉	小説家、新聞記者	南翠、京都日出新聞時代に知り合う	1			○		
	高瀬 文淵	小説家	本名：黒川安治、『少年世界』に執筆	1					
	竹貫 佳水	小説家、編集者	博文館 本名：竹貫直人	3	2				
	高野 柳翠	小説家	硯友社	1	1				
	武田 桜桃	編集者、小説家	博文館、『少年世界』編集、俳誌『南柯』を編集	2	1			○	○
	中山 白峰	小説家	『少年世界』に作品を書いている、小説に尾崎紅葉『星月夜』あり。	1					
	西村 渚山	小説家、編集者	巖谷小波の門人、木曜会メンバー、博文館で『中学世界』の編集を行う	2			○	○	
福田 琴月	小説家、児童文学作家	金港堂『少年界』『少女界』の記者、本名：福田喜八 ドイツから帰った小波を神奈川で迎える。友人	2		○				
森 愛軒	編集者、小説家	木曜会、『少年世界』に多数執筆、『写真画報グラフィック』第2巻24号 主筆、ドイツ行きの見送り	2	*	○	○			
2 俳人・歌人	上田 聴秋	俳人	本名：上田肇、不織庵、京都日出新聞時代、明治26年ぐらいから	1	1				
	金沢 種美	歌人	絵葉書収集	1					
	小泉 迂外	俳人	本名：小泉清三郎、秋声会、4代目華屋与兵衛(江戸前寿司)の弟	1	1				
	武富 瓦全	俳人、近松研究者	本名：武富春二、水落露石は従兄、京都日出新聞時代に知り合う	3					

平林 鳳二	俳人、書画骨董・古俳書の売買業		2	*				
星野 麦人	俳人	本名：仙吉 尾崎紅葉の指導を受け、秋声会に参加	1	*				
牧野 望東	俳人	秋声会	2	*				
水落 露石	俳人	京都日出新聞時代に知り合う	23	8		○		○
森 無黄	俳人	『卯杖』を編集、秋声会	1	1				
浅井 忠	洋画家	1900年4月から2年間フランスに留学、絵はがきの収集も行う、パリで和田英作、中村不折、久保田米斎などとともに小波と出会う	1			○		○
飯田 宗吉	洋画家	大下藤次郎が開設した水彩画講習所に通う	1					
鶴澤 四丁	画家	秋声会同人。水彩画を大下藤次郎に学び、ヨーロッパで修業	4				○	○
歌川 国松	画家、浮世絵師	小波著『蝸牛』、『大江山』 <日本昔噺>、『花見茶屋』などの挿絵	1					
大下 藤次郎	水彩画家	汀鶯、木曜会	5					○
太田 三郎	洋画家	白馬会洋画研究所で黒田清輝に師事、『少年世界』にも描く	1					
大田 南岳	俳人、画家	秋声会、木曜会	4	3		○		
岡野 栄	洋画家、版画家	木曜会、『日本一ノ画噺』などで小波の文の絵を担当	2				○	
尾形 月山	浮世絵師、日本画家	小波『源三位 玩具合戦』（日本お伽噺）の挿絵を描いた尾形月耕の息子	1					
小川 千甕	仏画師、洋画家、漫画家、日本画家	小川煙村の弟。本名：小川多三郎、小波『二人山賊』の挿絵	1					
織田 東禹	洋画家	本名：明、『少年世界』に絵あり	1					
梶田 半古	日本画家	本名：錠次郎、明治30（1897）年、読売新聞社員となり、尾崎紅葉の『金色夜叉』の挿絵を書く、小波「日本お伽噺」シリーズなど挿絵多数	1					○
片山 春帆	挿絵画家	武内桂舟、大出東臯、河合玉堂に師事、小波「世界お伽噺」など挿絵多数	1					
鹿子木 孟郎	洋画家	小波『王取王子』（世界お伽文庫）など	1					
北澤 楽天	漫画家、日本画家	本名：保次	1					○
桐谷 洗鱗	日本画家	富岡永洗に師事。『日出新聞』に挿絵を描く、小波『指輪の魔力』（世界お伽噺）の挿絵他	1	1				
久保田 金僊	日本画家	久保田米僊の次男。米斎は兄。渡米実業団に参加。小波『玄武門 降参龍』（日本お伽噺）の挿絵他	1				○	
久保田 米斎	日本画家	日本画家の久保田米僊の長男、ドイツ、白人会、ドイツから同じ船で帰朝、フランスで宿泊場所を紹介、出会う。小波『病魔降伏 露西亜の部』（世界お伽噺）の挿絵他	19	2		○	○	○
倉田 松涛	画家（俳画、仏画）	本名：斧太郎、尾崎紅葉とも関係あり	1	1				
斎藤 松洲	日本画家	俳誌『卯杖』に表紙画	1					

	新海 竹太郎	彫刻家	小波と同時期にドイツにおり、日記から出会っていたと類推される。「巖谷小波氏小立像」(1922)を作成	2						○
	瀧島 寛水	画家	俳句もしていた	1						
	武内 桂舟	画家、浮世絵師	本名：武内振平、硯友社、『こがね丸』の挿絵、小波がドイツへいくとき見送る	2		○				○
	田中 良	画家	太平洋画会研究所に通う	1						
	谷崎 蘆洲	画家		1						
	谷 洗馬	挿絵画家	富岡永洗に師事。馬の絵を描く。『少年世界』に口絵あり	1						
	塚本 靖	建築家、工学博士	号：准亭 小波とベルリンで写生をした のち「三越児童用品研究会」のメンバーとなる	8	2				○	○
	筑井 江畔	日本画家	本名：飯田信 号：予規、九如居、二九亭	1						
	富岡 永洗	日本画家	松本楓湖・梶田半古らとともに日本画会を創立、小波『鬼童丸 風屋福右衛門』（日本お伽噺）の画家	1		○				○
	永井 鳳僊	日本画家	久保田米僊の門人 「国民新聞」演芸記者	1						
	二世五姓田芳柳	洋画家	『少年世界』にシリーズ口絵「日本武将鑑」を描く	1	1					○
	福原 信辰	写真家	路草、父は資生堂創業者	1						
	山村 耕花	日本画家、浮世絵師、版画家	本名：豊成、『少女世界』の口絵多数、小波『此親此子』（世界お伽文庫）の画家	2						
	渡部 審也	洋画家	白人会、小波『物言ふ馬』（世界お伽文庫）の画家、『少年世界』にも口絵あり	1						
	和田 英作	洋画家	小波がパリで宿泊した宿に住んでいて、会食をする、『少年世界』に口絵シリーズ「動物標本」あり	3		○				○
4 演劇関係者	喜多村 緑郎	新派の女形俳優	小波の日記によると、明治37年1月31日小波を訪ねている	2						
	高安 月郊	劇作家、詩人	初めて出会ったのは明治26年、硯友社が京都へ来たとき。ドイツから帰った小波を京都でもてなす	1		○			○	
	坪内 士行	劇作家、演劇研究者	坪内逍遙の甥で養子	2						
	東儀 鉄笛	俳優、音楽家	本名：東儀季治 肺炎のための天地療養のとき、小波と宿を共にする、小波『決死隊 征露軍歌』や『少年世界』での作曲、「お伽倶楽部」	3						
	藤澤 浅二郎	俳優、劇作家、ジャーナリスト	1891年川上音二郎の書生芝居結成に作者兼俳優として参加、ドイツで公演	1	1	○				
5 記者	岡本 橘仙	日出新聞記者、旅館主人	集古会会員 絵葉書交換会	1						
	黒田 天外	日出新聞記者	本名：讓	1	1					
	高尾 亮雄	新聞記者	大阪お伽倶楽部、小波の書生として、一六の家にいたことがある。	1						
	玉井 喜作	新聞記者	独貿易の雑誌『東亜』を刊行、家に招かれたりしている。花祭りの発起人	2		○				
	宮里 雪嶺	元記者	本名：宮里塚麿 旧鹿児島新聞記者、渡米ネバダ在留(1920)。	1						

姉崎 正治	宗教学者、文学博士	ドイツで姉崎氏は小波に釈尊降誕会でお伽噺の口演を依頼、ドイツでの花祭りの発起人	2		○	○	○	○
石原 誠	生理学者	ドイツ留学	1					
有働 良夫	農学博士、農林技師、農務局耕地課長	小波の兄弁二郎の知人	1					
大村 仁太郎	ドイツ語学者、教育家、学習院	ドイツ、小波と教育演説を聞きに行く、学校見学も同行	4	*	○			
角田 勤一郎	詩人、北欧文学者、文芸評論家、新聞記者	角田浩々歌客	1					
加藤 正治	法学者	俳号：犀水 白人会、帰国後も俳句のつながり	3	*	○		○	○
川尻 清潭	歌舞伎研究家	すみ屋彦兵衛、大正14年東京歌舞伎座監事室室長。小波の息子、三一は、松竹で、川尻のあと、歌舞伎座監事室長になる。	3					
幸田 成友	歴史学者、経済史学者	露伴の弟、筆名：巨浪、『少年世界』に作品あり	1					
佐々木 信綱	歌人、国文学者	広津柳浪の家で出会う。小波とともに三越の時好倶楽部、『少年世界』の記事多数	2				○	○
斯波 忠三郎	船舶工学者、東京帝国大学教授、貴族院男爵議員、工学博士	ドイツで、小波と春季大観兵式に同行、小波のテニス、ポート仲間、のちに「三越児童用品研究会」のメンバーになる。	4		○			
清水 澄	法学者、憲法学者	ドイツ、白人会、俳号：晴月、小波は、妻の兄である三好重道と親友 ミランで出会った	4	1	○		○	
谷本 富	教育学者、高等師範学校	俳号：梨庵、白人会、ドイツに伊藤博文が来たときに弁ずる	1	*	○			
俵 国一	冶金学者、工学博士	ドイツでの交流	1					
坪井 正五郎	日本初の人類学者	小波の「世界お伽文庫」（1901～1916）のためのアイデアや資料を貸す。小波が三越の「児童用品研究会メンバー」として招く、郷土玩具でもつながりがあり	1		○			○
中川 孝太郎	法学博士	ドイツ、小波がドイツで大法廷の見学に連れていってもらった。霞峯	1	1	○			
中村 進午	国際法学者	小波の獨逸協会学校時代からの友、大町桂月と第一高等中学校で学ぶ	1					○
芳賀 矢一	国文学者	ドイツ、花祭りの発起人の一人、教育演説を小波と聞きに行く。小波を文部省図書課の嘱託として、国定教科書編纂に携わるよう推薦	2	1	○			○
長谷川 天溪	批評家、英文学者	博文館	2	1				○
藤岡 勝二	言語学者	ドイツ、ローマ字化国語国字運動を繰り広げ、小波も参加、上田萬年の後継者	2					
箕作 元八	西洋史学者、文学博士	俳号：南亭 小波に次ぐ絵葉書収集家と言われた、共通の友人に美濃部達吉がいる。	2	1				○
山口 弘一	法学者	ドイツ	2					

	Rudolf Lange	言語学者、日本学者	小波をドイツに招聘、1887年にベルリンの東洋語学校でドイツでは初めての日本語の授業を開始	1		○	○		
7 教育者	岩内 誠一	小学校長	京都	1					
	坪井 玄道	体育学者で日本最初の体操教師	ドイツで小波と体操演習会、フレエベル会幼稚園を見に行く。テニス仲間。のち三越「児童用品研究会」のメンバー	1		○			
	西 松二郎	教育者	硯友社、号：芳菲山人。西が学生の頃に父の許に出入りしていた頃からの旧知の間柄（『巖谷小波 お伽作家への道』）	2					
8 医師	阿久津 三郎	泌尿器科医師	ドイツ	1	1				
	隠岐 敬治郎	医者	水口藩医の四男	2					
	村山 半石	医師	白人会、ドイツでの天長節で尺八を演奏	1		○			
9 宗教家	池山 榮吉	宗教家	ドイツ協会学校第一回卒業、ドイツでの小波と花祭り発起人	2		○			
	藪田 宗恵	浄土真宗本願寺派の僧侶	旧姓：浅井 号：確堂 小波がドイツで花祭をするときの発起人	3	1	○	○		
	戸川 安宅	文学者、日本基督教会の牧師	秋声会、雅号：残花、小波『猿蟹合戦』（日本昔噺）に「徳不孤必有隣」を執筆、三越が起こした元禄ブームに関係した元禄会の主催者。	1		○			
10 政治家・官僚・公務員	伊藤 泰蔵	宮人	著書：『明治天皇御製神訓謹解』	1	1				
	大内 丑之助	司法省判事、植民地官僚	独逸協会学校	1					
	大橋 新太郎	博文館館主、政治家、実業家		1					
	小原 新三	日本の内務・朝鮮総督府官僚	俳号：烏兔、白人会、観世流の謡の稽古で小波に出会う	6	4			○	
	川村 黄雨	元老院、貴族院、俳人	秋声会、本名：種次	1	*				
	北村 耕造	建築家、宮中顧問官		1					
	熊谷 無漏	鉄道院、俳人	本名：発之助 著書『艶色句選』には、紅葉、小波の句が含まれる	1	1				
	倉知 鉄吉	書記官、外務官僚、貴族院勅選議員	俳号：喜仙、ドイツ ベルリンの花まつりの発起人の一人	1		○			
	小泉 又一	文部官僚、教育者、高等師範学校	ドイツで小波が誘ってフレエベル会幼稚園や教育演説などに行く。	3		○			
	国府 犀東	記者、官僚、漢詩人	『中江兆民』（少年読本、博文館）を執筆	1				○	
杉浦 俊一	大蔵省	小波の兄弁二郎の知人	1						
杉山 四五郎	内務官僚、政治家	俳号：越嶺、ドイツ、白人会	5	*	○				

瀬川 疎山	実業家、政治家 (衆議院議員)	本名：瀬川嘉助 正岡子規や尾崎紅葉の俳句集を編纂	1	1				
田村 新吉	実業家、政治家	神戸からの渡米実業団	1					
角田 竹冷	俳人・政治家	秋声会、本名：角田真平	2			○		○
仲川 明	奈良県立奈良 図書館、奈良 県童話連盟、 奈良郷土会		1					
西山 省吾	札幌鉱山監督 署鉱山監督官	日記によるとドイツで出会っている	1					
林 博太郎	教育学者、実 業家、政治家	ドイツで小波と高等女学校の参観に行く	1			○		
正木 直彦	美術行政家	浅井忠の遺作展覧会に出席	1					
水野 幸吉	外交官	俳号：酔香 白人会 『小波洋行土産』では書記官、 小波編『酔香遺芳』あり	3	2		○		
水野 直	政治家	学習院御用掛でもあった	1					
柳原 義光	貴族院議員	俳号：華山 小波がドイツへいくとき京都で見送りに きてくれる。明治23年ごろからの友 お伽倶楽部の 総裁、大正天皇の従兄	5					○
廬 百寿	ドイツ公使館 書記	白人会同人 俳号：百樹 ドイツで小波を出迎え(旧 友とあり)、下宿探しを手伝う、観兵式も一緒に見に 行く、パリもともに旅する	1	*		○		
麻田 駒之助	反省社(社 主)、雑誌経 営者、俳人	俳号：椎花、中央公論社の初期の社長。『ホトトギ ス』の俳人	1					
泉谷 黒白	関西写真製版 印刷合資会社	ドイツ 泉谷氏一	15	1				
市田 弥一郎	呉服問屋	『小波洋行土産』を受領した人物として掲載。	2			○		
岩見 鑛作(岩 見鉱作)	日本銀行	『足跡：木村小舟君生誕五〇年記念出版』より少年 時代に『少年世界』の愛読者として木村小舟記者と採 集会に出掛ける	1					
大倉 直介	建築技術者、 実業家		1					
加賀 豊三郎	実業家	集古会 紅葉とも関係 翠溪	1					
鹿塩 秋菊	すみや書店	水鳥会、葉書	8	3				
加山 道之助	質屋、横浜史 談会、横浜郷 土史研究会	集古会、郷土玩具収集の仲間で玩具党を結成、俳号： 可山	1					
川北 幸寿	台湾銀行員	絵葉書収集、俳人	4	1				
鎮目 桃泉	技術者(芝浦 製作所)、蒐 集家	本名：鎮目哲二 絵葉書、燐寸票などを集める、我楽 他宗のメンバー、谷中の変人と呼ばれる	3					

	志保井 重要	高田商店	小波がドイツに行くとき同じ船に乗る	1		○			
	下津 謙蔵	下津醤油代表取締役社長	三重	1					
	如山堂	如山堂書店	経営者は今津隆治(1877-) 『百字文百人評』(如山堂)に小波の項あり。美本を作った(『出版興亡五十年』)	1	1				
	鈴木 四十	経営者	小波と同じ船で帰朝。俳号：甘露、グラスゴー大学出身	1		○	○		
	関屋 祐之助	実業家(日本郵船会社)	オペラ歌手 敏子の父、妻は声楽家の愛子	1					
	田口 桜村	松竹キネマ撮影所の初代所長		1					
	堀内 汎	青梅銀行取締役	絵葉書収集家	1	1				
	光村 利藻	実業家、印刷業	雑誌を発行。紅葉、博文館とつながりあり。	1					
	三好 重道	実業家	三菱合資会社常務理事(昭和5年) 小波の親友、教会で出会う。小波の初旅に同志社から姫路まで同行。	2			○		
1 2 軍人	有田 恕	陸軍軍人	ドイツ	1					
	石本 久萬男	海軍主計、東京水交社々監	独逸協会学校の同級生、英国からドイツへ行ったとき、小波を頼った。不平坊、白人会	6	5		○	○	
	兼松 習吉	陸軍少将	ドイツ	4	1			○	
	窪田 重弼	海軍士官	俳号：空々 白人会、ドイツで花祭り発起人、小波を英国で案内	7	1	○		○	○
	桜井 忠温	日本陸軍軍人、作家	櫻井鳴村は実兄、『少年世界』にも多く記事あり。日露戦争時の戦争文学『肉弾』で知られる。	3				○	
	長岡 外史	陸軍軍人、政治家	ドイツで小波が花祭をするときに手伝いを依頼される。	1		○			
	吉田 豊彦	陸軍軍人	ドイツ	4	1				
1 3 収集家	林 若樹	収集家	本名：林若吉 坪井正五郎教授の研究室に出入りした、集古会	2					
1 4 組織	水鳥会	葉書書画会	小波が主催した葉書書画会(米斎、秋菊などが参加)	1	1				
	白人会同人	俳句の会	小波がドイツにいたときの俳句の会	1	*				
1 5 子ども	君塚 浩志郎	小学生		1					
	酒井 宗太郎	イヨ八幡商業学校	のち、酒六の創業者。南予綿業の父と言われる。	1					
	関根 利助	子ども読者	近衛第六兵站司令部から 絵葉書交換を依頼	1					
	井上 末子	知人の親族	井上馨の姪で養女。井上勝之助の妻。ドイツ	10					

巖谷 三一	親族	小波の長男 劇作家	1				○	
巖谷 四六	親族	木曜会メンバー	2					
巖谷 春生	親族	小波の弟	2					
大橋 須磨子	知人の妻	大橋新太郎の後妻（1897）『金色夜叉』のお宮のモデルといわれる。	1					
尾崎 夏彦	知人の親戚、美術史家	尾崎紅葉の息子、子どもの頃、本を送ってくれた。小波が結婚の仲人	1				○	
日下部 弁二郎	親族	小波の兄、土木技師、実業家、ドイツで小波を迎える	3		○			
下郷 いせ子	知人の妻	伊勢子は、下郷寅吉（伝平）の長女下郷豊彦の妻で、貴族院議員。文子は次女。滋賀の名士	1					
辻 順宣	親族	一六娘婿 小波より7歳年上 小波を7歳の時から知っている。一六の書生で兄弟のようにして育った	1				○	
富森 長太郎	親族	帝国ホテル副支配人 姉幽香の息子。小波の甥。	4					
西岡 曦山	親族、日本統治期の台湾において活躍した児童文学作家	本名：西岡英夫 姉のきみが小波の兄、立太郎と結婚、木曜会、父親同志友人	4	1			○	
藤島 逸人	不明	藤島正健の養子。佐々木信綱の長男。	1					